

2013 年度ドクター研究員研究活動実績報告書

ふり 氏 名	はだ しんや 羽田 真也
(研究テーマ名) 日本近世における地域社会構造と都市性の展開	
(研究活動実績) <p>本研究では、日本近世における農村と都市の関係、すなわち都市との関係形成が村社会（地域社会）に如何なる影響をもたらすかについて追及することを課題としている。本年度は、播磨国加古郡新野辺村（現・兵庫県加古川市別府町）を対象に、以下の活動を行った。</p> <p>①一昨年度に集中的に取り組んだ新野辺村の出稼ぎ（酒造稼ぎ）の問題について、その研究成果を『市大日本史』第 16 号（2013 年 5 月）に発表した。</p> <p>②本年度は、当初の研究計画とは若干異なることになったが、新野辺村とその近隣に所在する有力寺社（刀田山鶴林寺と浜之宮天神社）との関係について主に調査・研究を進めた。2013 年 9 月 15 日には鶴林寺で子院（新野辺村の旦那寺）住職の聞き取りと文書調査を行った。12 月 26・27 日には加古川市総合文化センターにて文書調査を実施した。また、2014 年 3 月末には浜之宮天神社で文書調査を行う予定である。これらの作業を通して、昨年度に検討した水利秩序に有力寺社が深く関わっているという論点が浮かび上がってきた。なお、論文化にはもう少し時間を要するが、現段階の研究成果を、2013 年 9 月 15 日と 2014 年 2 月 8 日の 2 度、地元・新野辺第一町内会主催の研究会（新野辺の歴史探訪）で報告した。</p> <p>③都市（城下町）に関わっては、2013 年 12 月 18 日の近世大坂研究会小円座（近世大坂研究会、都市研究プラザ都市論ユニット、都市文化研究センター主催）にて、塚田孝氏著『大坂の非人一乞食・四天王寺・転びキリシタン一』の書評を行った。その内容は『部落問題研究』（部落問題研究所）で公表する予定である。</p>	